

エクロック®ゲルを使用される方へ

げん ばつ せい えき か た かん しょう 原発性腋窩多汗症とその治療法

監修 愛知医科大学 皮膚科学講座 准教授

大嶋 雄一郎 先生

原発性腋窩多汗症とは、汗の量が多くなる原因となる病気や障害がないにもかかわらず、多量のわき汗に悩まされる疾患です。

シャツに汗染みができるなど、日常生活に支障をきたすほど多量の腋窩(わき)の汗が、明らかな原因がないまま6ヵ月以上みられ、以下の6症状のうち2項目以上あてはまる場合を「原発性腋窩多汗症」と診断しています*1。

〈原発性腋窩多汗症の診断基準*1〉

- 最初に症状がでるのが25歳以下であること
- 左右両方で同じように発汗がみられること
- 睡眠中は発汗が止まっていること
- 1週間に1回以上多汗の症状がでること
- 家族にも同じ疾患の患者さんがいること
- わき汗によって日常生活に支障をきたすこと

診断の確定と治療法の選択のために、多汗症の症状の程度を評価します。

以下の①～④の中からあてはまる症状を選ぶ方法で、自覚症状を基に重症度を評価できます。③～④が重症とされています。

〈原発性腋窩多汗症の重症度評価(HDSS*1,*2)〉

- ① 発汗は全く気にならず、日常生活に全く支障がない
- ② 発汗は我慢できるが、日常生活に時々支障がある
- ③ 発汗はほとんど我慢できず、日常生活に頻繁に支障がある
- ④ 発汗は我慢できず、日常生活に常に支障がある

HDSS: hyperhidrosis disease severity scale

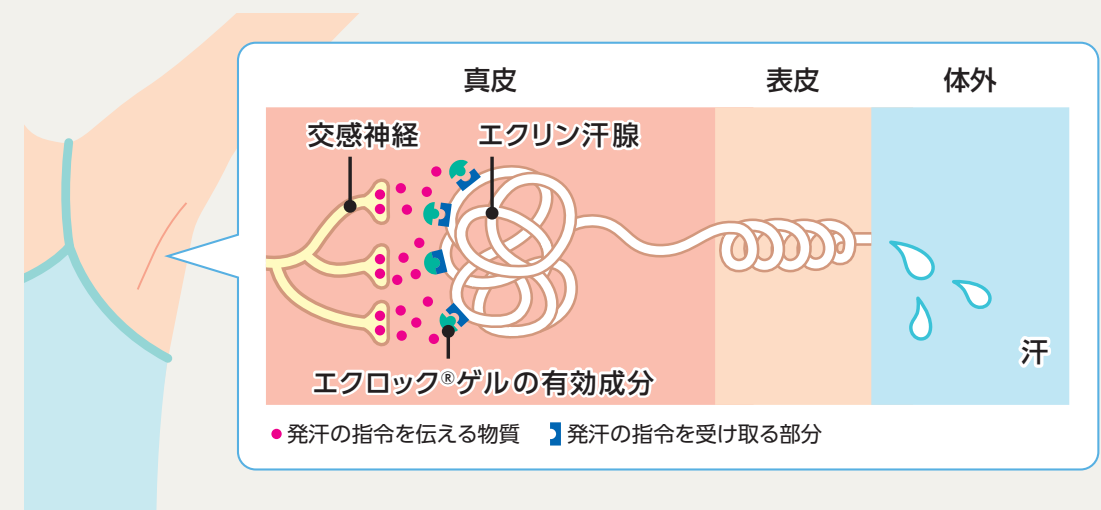
主な治療法には、塗り薬、注射薬、手術などがあります。

原発性腋窩多汗症の主な治療法

塗り薬	汗を出す指令をブロックする働きのあるエクロック®ゲルを、わきに塗布します。
	汗の出口を塞ぐ働きのある塩化アルミニウム製剤*3を、わきに塗布します。
注射薬	汗を出す指令を伝える神経に作用するA型ボツリヌス毒素を、わきに注射します。
手術	汗を出す指令を伝える神経を切断します。
その他	神経ブロック、レーザー療法、内服療法、精神(心理)療法が、上記の治療と一緒に用いられることがあります。

エクロック®ゲルは、発汗の指令をブロックします。

エクロック®ゲルは、有効成分が皮膚から浸透して、エクリン汗腺*4の交感神経から発汗の指令を受け取る部分をブロックすることで、発汗を抑えることが期待できます。



*1 藤本 智子ほか: 日本皮膚科学会雑誌. 2015; 125(7): 1379-1400. より改変 ©日本皮膚科学会
*2 Strutton DR, et al.: J Am Acad Dermatol. 2004; 51(2): 241-248.
*3 日本国内では医療用医薬品として未承認で、健康保険の適用はありません。

*4 エクリン汗腺は、皮膚の中にある汗をつくる器官のひとつで、主に体温調節のために、水分の多い汗を分泌します。多汗症の症状である多量の汗は、主にエクリン汗腺から出ています。

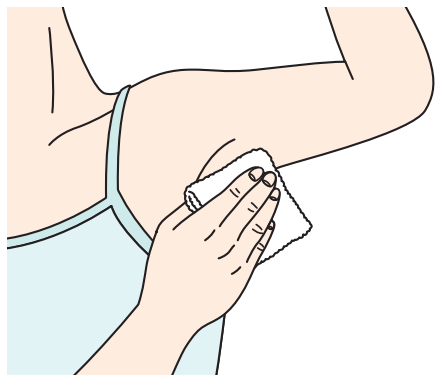
エクロック®ゲルを使用される方へ

エクロック®ゲルの使い方と使用上の注意

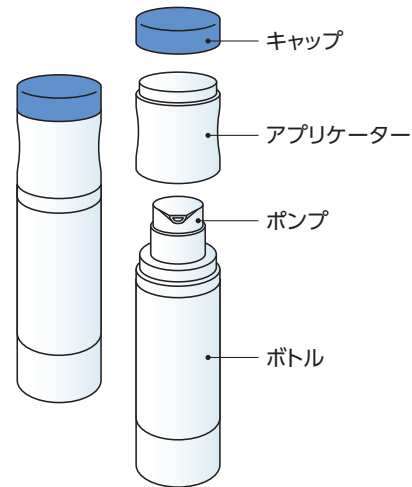
監修 愛知医科大学 皮膚科学講座 准教授
大嶋 雄一郎 先生

1日1回、以下の手順で両わき全体に塗布します。

1 わきの水気をタオルなどでよく拭き取ります。



2 ボトルからキャップを外した後、アプリケーターを外します。



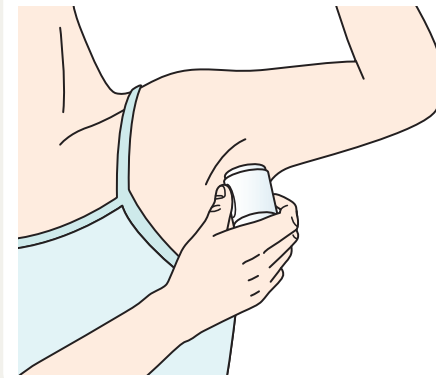
3 ポンプを押して、アプリケーターの上面に薬液をのせます。

使用量は、右わきにポンプ1押し分、左わきにポンプ1押し分です(本剤1本(20g)が14日分に相当します)。

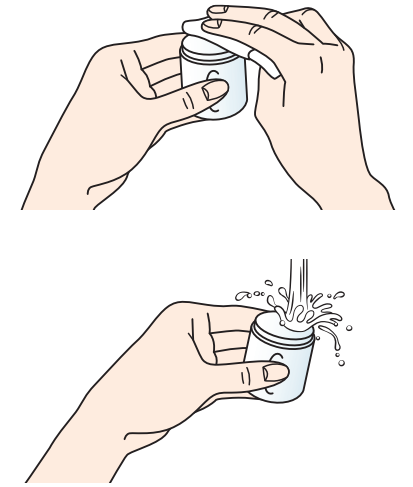


4 薬液をわき全体に塗り広げます。

手に薬液がついた場合には、絶対に顔や目をさわらず、すぐに水で洗い流してください。



5 アプリケーターに残った薬液は、ティッシュペーパーなどでていねいに拭き取るか、水で洗い流してください。



薬液を塗った後、わきが乾くまでは寝具や衣服が触れないように注意してください。

使用上の注意

緑内障や前立腺肥大症の方、わきに傷や湿疹・皮膚炎などがある方、妊娠中や授乳中の方は、あらかじめ医師・薬剤師に伝えてください。

以下のような症状があらわれたら、使用をやめて、すぐに医師の診察を受けてください。
皮膚炎や紅斑、かゆみ、湿疹、あせも、口の渇き、光をまぶしく感じる など

そのほか、気になる症状があらわれたときは、医師にご相談ください。

その他の使用・保管上の注意

- 薬液を手を使ってわきに塗らないでください。
- 薬液が手についたら、すぐに洗い流してください。
- 薬液を塗る範囲に傷や湿疹、皮膚炎がある場合は医師に相談してください。
- 薬液のついた手で顔をさわったり、目に入れたりしないよう注意し、万一目に入った場合は、すぐに水またはぬるま湯で洗い流してください。
- 直射日光、火気を避けて室温で使用、保管してください。